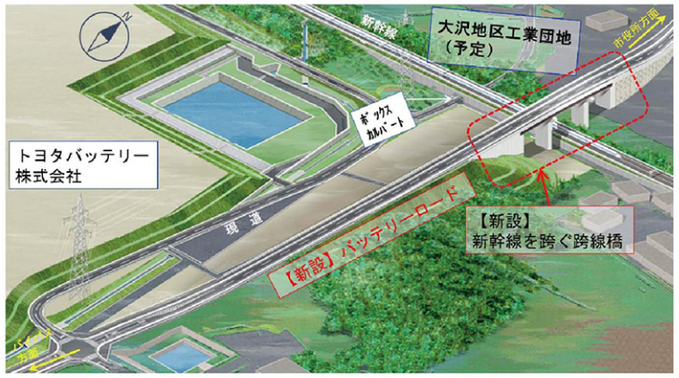
バッテリーロードの整備について

現道は新幹線の下をボックスカルバートで通過していますが、現道の東側に新たに整備されるバッテリーロードは、新幹線を跨線橋によって越える構造となります。この跨線橋を含む未開通区間について、現在、静岡県、湖西市、浜名湖西岸土地区画整理組合が緊密に連携して事業を進めています。現在の進捗状況は、湖西市施工区間では今年度中の事業認可取得を目指して手続きが進められており、静岡県施工区間では道路設計が進行中です。また、新幹線を跨ぐ跨線橋についても、JR東海との協議が着実に進められています。

さらに、新幹線北側の本道路西側エリアでは、「大沢地区工業団地」の整備が計画されています。一方で、現在新幹線北側に立地する物流施設や栄町四丁目の一部住宅地については、本道路の計画ルートと重なることから、移転や用地協力が必要となる予定です。こうした事業を進めるにあたり、道路完成後の安全性や利便性の向上を見据え、計画・設計段階から地元自治会と行政が連携しながら、地域の皆様のご意見やご要望を丁寧に伺っています。また、住民説明会などを通じて、事業内容について分かりやすい説明が行われています。

本道路は、交通利便性の向上だけでなく、新たな産業集積や地域活性化にもつながる、湖西市の将来を支える重要な基盤整備です。私自身も、道路技術者として培った経験を活かしながら、住民の皆様と行政をつなぐ架け橋となり、より良い事業となるよう力を尽くしてまいります。本事業についてご不明な点やご不安なことがございましたら、どうぞお気軽にご相談ください。



※湖西市提供の資料を編集して作成



Profile

昭和51年(1976年)湖西市生まれ　東小学校卒業、湖西中学校卒業
浜松西高校卒業、横浜国立大学工学部卒業、政策研究大学院大学(修士課程)修了
JICA青年海外協力隊参加(ブータン)、(株)オリエンタルコンサルタンツグローバル勤務、
株式会社コサイコンサルタンツ 代表取締役、技術士(建設部門・道路)、
NPO法人ハピネス湖西 理事長(前向花畑の管理人)
静岡県議会議員(1期目)

皆さまの「声」をお聞かせください！

ご意見・ご要望はこちら！

■ お住いの地域や日常生活でのお困りごと（例：道路、交通安全、防犯、防災、社会福祉、教育など）、管轄が市なのか県なのかよく分からない場合でもご相談ください。自治会や市議会議員さん等とも連携して課題に取り組みます。

■ ご連絡は、右の二次元コードをスマホ等で読み取り後、入力フォームに必要事項を入力してください。その他、メール、電話、FAXでもお受けいたします。

※こちらから返信や回答をお送りしますので、お名前と連絡先（電話番号、メールアドレス）をご記入ください。匿名でのご連絡はご遠慮ください。

菅沼やすひさ事務所

〒431-0441　湖西市吉美 3257 コサイグリーンビル A-2H号室
※湖西市役所西側の２階建建物の２階です。お気軽にお立ち寄りください。
TEL.053-543-5758　FAX.053-543-5759　✉ suganuma.kosai@gmail.com
開所時間 / 平日 9:00～12:00（土日祝、年末年始はお休みします）

SNSでも発信しています

ホームページ　Facebook　Instagram

おれんじ通信 Vol.5
2026年11月

「県政を身近に！」
動く男。県政レポート！

静岡県議会議員
菅沼 泰久
すがぬま　やすひさ

動く男。



【ごあいさつ】

静岡県議会議員の菅沼泰久です。おかげ様で、県議会議員として3年目を迎えることができました。この間、多くの市民の皆様から、地域をより良くするための貴重なご意見やご助言をいただき、活動の大きな力となりました。地域にはさまざまな課題があります。それらの解決には国・県・市、そして民間が連携して取り組むことが不可欠です。現在、静岡県では「地域未来戦略」を推進しています。これからは地域の強みを生かし、新たな価値を生み出しながら発展していく時代です。湖西市には、豊かな自然や産業、人材など、他地域に負けない素晴らしい地域資源があります。これらの強みを地域の発展に繋げるため、これからも初心を忘れることなく、未来を見据え、全力で取り組んでまいります！

菅沼 泰久

主な活動報告

県議会９月定例会

9月18日～10月15日まで開催され、来春の統一地方選における静岡県議の定数削減案や高校生の自転車通学ヘルメット義務化に関する条例改正案などが可決されました。私は9月30日に一般質問で登壇し、6つの項目について県の考えを問いました（詳細は裏面）。



常任委員会

今年度は「建設委員会」に所属し、副委員長を務めております。これまで土木技術者として培ってきた専門知識と経験を最大限に生かしながら、県内のインフラ整備と適切な維持管理のさらなる向上に向け、一つひとつ丁寧に取り組んでまいります。



特別委員会

「農林水産業振興特別委員会」に所属して活動しています。地域社会を支える重要な基盤産業である農林水産業について、担い手育成、先端技術活用による生産性向上、販路・消費拡大、鳥獣被害対策などに関する調査及び提言を行います。



ラジオ出演（偶数月第４木曜日夜７時～）

FMハロー（浜松エフエム放送:76.1MHz）の「KENGI DE Night！」に出演しています。私の担当は、隔月（偶数月）第4木曜日の19時～19時30分です。県議の活動や県の取り組みなど、県政を身近に感じていただけるように発信します！過去の放送は下の二次元コードからご視聴できます。



過去の放送はコチラから



【特集】

県議会 令和8年9月定例会 一般質問（9月30日）



一般質問の録画データは
こちらの二次元コードから
ご覧になれます



Q1. 外国人と共に進める地域づくりの推進について

「日本一の多文化共生県」の実現に向け、今後、県内に暮らす外国人の声を
どのように施策に生かし、地域づくりへの参画を進めていくのか？

A.

【施策】外国人の生活状況や地域ごとの課題を調査し、外国人コミュニティの声を聞きながら、今後の施策に反映します。また、外国人住民、行政、企業、地域団体などが連携して取り組める仕組みをつくり、外国人の地域づくりへの参加を進めます。

【目指す姿】日本人と外国人が互いに支え合い、外国人も地域の一員として安心して暮らし、活躍できる社会を目指します。さらに、外国人の持つ多様な文化や経験を地域の新たな価値につなげ、「日本一の多文化共生県」を実現します。

菅沼からの要望

外国人を地域のパートナーとするには、生活課題の把握に加え、地域行事の担い手拡大につながる情報をコミュニティリーダーから得ることが重要。特に自主防災活動への参加は、防災力向上と地域とのつながり形成に有効であり、外国人が義務的ではなく参加のメリットを感じられる工夫をしてほしい。

Q2. 所有者不明の空き家への対策について

所有者不明の空き家への対策として、市町が行う実態把握や
財産管理制度の活用に対し、今後どのような支援を行っていくのか？

A.

【施策】所有者が分からない空き家について、財産管理制度を市町が円滑に活用できるよう、所有者調査の方法や財産管理人を選任する手続きなどをまとめたマニュアルを作成します。また、先進的な自治体の事例を紹介し、市町のノウハウ不足を支援します。

【目指す姿】所有者が分からない空き家であっても、市町が財産管理制度を活用して、管理や解体、処分などを適切に進められるようにします。これにより、空き家が周辺の生活環境に深刻な影響を及ぼす前に、早期の問題解決につなげます。

財産管理制度とは？　所有者が分からない、または相続する人がいない空き家について、裁判所が「財産管理人」を選び、その人が空き家の管理や売却、解体などを進められる制度。空き家問題を解決する有効な手段の一つ。

Q3. 農業水利施設を支える持続可能な管理体制の構築について

連携管理保全計画（水土里ビジョン）の今後の目標と現在の策定状況は？
また、実効性のある取組につなげるため、土地改良区を含めた管理を担う
地域関係者の運営基盤の強化に対する具体的な支援は？



A.

【施策】令和11年度末までに、県内の土地改良区の受益面積の8割で「水土里ビジョン」の策定を目指します。また、湖西用水土地改良区の取組（KARCO）を先進事例として県内に広げるとともに、国の助成制度や多面的機能支払交付金などを活用し、農業水利施設の維持管理や運営基盤の強化を支援します。

【目指す姿】農業者が減少する中でも、土地改良区や水利組合、地域住民などが連携して、農業用水や水利施設を将来にわたって適切に守り、安定した農業生産を支えられる地域づくりを目指します。

Q4. 安全で魅力ある浜名湖水辺空間の整備について

「浜名湖水辺整備基本計画」に基づく「防護」、「利用」、「環境」の調和のとれた
湖岸堤整備を今後どのように推進していくのか？

A.

【施策】高潮や津波から地域を守ることを最優先に、被害想定を踏まえて整備の優先順位を定め、河川整備計画を早期に策定します。また、地域との意見交換やマリンスポーツとの連携、「かわまちづくり支援制度」の活用などを進め、自然や景観、観光にも配慮した湖岸堤整備を進めます。

【目指す姿】住民の命と暮らしを守る安全な浜名湖を実現するとともに、豊かな自然や美しい景観、マリンスポーツなどの地域資源を生かし、地域の活力や観光につながる魅力的な水辺空間を目指します。

浜名湖水辺整備基本計画とは？　浜名湖の魅力を生かしつつ、防災・利活用・環境保全を調和させるための整備方針をまとめたマスタープラン（基本計画）。令和7年4月策定。

菅沼からの要望

地元からは安全対策の早期実施を求める声が強く、また駅周辺と水辺を活用した賑わいづくりも始まっている。地域と連携した整備方針を踏まえ、限られた予算の中で優先順位を明確にし、その内容を地元にわかりやすく示してほしい。

Q5. 都市計画道路大倉戸茶屋松線の整備について

都市計画道路大倉戸茶屋松線（バッテリーロード）整備の現在の進捗状況と、
未着手区間の早期事業化に向けた今後の取組みについての県の考えは？

A.

バッテリーロードの未開通区間1.1kmのうち、南側0.5kmは土地区画整理組合が令和12年度の完成を目指して整備を進めています。残る0.6kmは、大沢地区工業団地の本格稼働に伴う交通を円滑にするため早期整備が重要です。市と県で分担して事業化を進め、道路設計や地元との合意形成、国への財源確保の要望などを進めていきます。（事業の詳細は裏面参照）。

Q6. 郷土愛を育む教育の推進について

県民幸福度日本一を目指す本県として、子ども・若者のウェルビーイング向上の観点から、
郷土愛を育む教育についてどのように考えているのか？

A.

【施策】地域の自然、文化、歴史、産業などを題材にした学習や、地域で働く大人と一緒に課題解決に取り組む探究学習を進めます。また、地元企業の見学や、地域で活躍する人との交流、最先端の技術に触れる機会などを通じて、地域や仕事への関心を高めます。

【目指す姿】子どもたちが、ふるさと静岡の魅力や課題を知り、地域の人とのつながりを大切にしながら、郷土への愛着と誇りを育むことを目指します。そして、将来どこで暮らし、働くことになっても、静岡とのつながりを心のよりどころとして、自分の夢や未来に向かって挑戦できる人材を育てます。

菅沼からの要望

①不登校などで地域とつながりにくい子どもも多いため、公教育だけでなく自然や伝統行事など多様な場で郷土を学ぶことが重要。特に新県立中央図書館が、郷土情報の発信や交流を通じて、県内外の人が故郷・静岡とつながれる拠点になることを期待したい。
②郷土愛教育の成果を子ども・若者のウェルビーイングと結びつけて「評価する」仕組みが必要。現行の幸福度意識調査は18歳以上のみで小中高生の意識が把握できない。子どもを対象とした継続的な調査を行い、政策に活かしてほしい。